

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 千葉県 】

1 実践テーマ	【 II III 】
2 実施対象者	学校名 流山市立小山小学校 対象学年 5・6学年 全校 人数 975人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (学活) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 (流山市ロードレース大会) ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの意義について知り、また、参加しようという意識を向上させる。 ・障害者スポーツを通じて、パラリンピック競技について知ると共に、障害者への理解を深める。
5 取組内容	<p>【流山市ロードレース大会 ボランティアスタッフ】</p> <p>「おもてなしプロジェクト」の一つとして、流山市教育委員会スポーツ振興課の協力のもと、「第26回流山市ロードレース大会」へのボランティア参加を行った。当日は、5・6年生の有志34名が参加し、「給水所」にて水やバナナなどの軽食を渡したり道路にて紙コップを回収したりした。</p> <p>また、小山小学校の児童がボランティアスタッフとして参加していることが一目でわかるように「with Team Oyama」というキャップを作り、当日はかぶって参加した。この活動後も、地域で活動する際に、着用していく。</p> <p>ボランティア経験をして、子ども達はたくさんの感想を持つこ</p>



とができた。また、その場にいたからわかったこと、感じたことがたくさんあったようだ。

小山小ボランティアチームは、流山市ロードレース大会に確実に貢献することができた。

【花いっぱい運動】

もう一つのおもてなしプロジェクトとして、「花いっぱい運動」に取り組んでいる。

栽培委員会から全校に呼びかけた「花いっぱい運動」は、たくさんのお花をみんなで育てるといふ地道な活動である。

9月からパンジーの種を蒔き、育て始めた。パッドに蒔いた種から出た芽は1000を越えていたが、水分や日当たりなど、なかなか難しく、ポットに移す時にはだいぶ減ってしまった。その後、11月の栽培委員会の活動でプランターに移植するところまで進んでいる。




【シッティングバレーボール体験学習】

「心のバリアフリープロジェクト」の一環として、千葉県障がい者スポーツ協会の協力の下、シッティングバレーボールチームの千葉パイレーツさんを招いて6年生が体験学習を行った。

パラリンピックの正式競技であるシッティングバレーボールのルールや競技について、シドニーパラリンピック元日本代表の佐藤様他4名の選手に教わる事ができた。

はじめは、座ったままの動き方や移動の仕方などを教わったが、思うように出来ず苦戦している様子であった。



	 <p>しかし、ボールを使っでの実践的な動きを行っていく内に少しずつ動けるようになってきた。また、同時にこのように動きが制限される中で、競技を行っている選手のすごさに気づいたようである。</p> <p>競技の体験後には、佐藤様が児童の質問を受けて下さった。児童達は「どうしてシッティングバレーボールをやろうと思ったのか？」や「やっていて嬉しかったことやつらいこと」など直接聞くことによって、より身近に感じる事ができたようである。</p> <p>最後に、教えていただいたお礼として、運動会で行った縄跳びを使った演技を披露し充実した体験学習を終えることができた。</p>
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「流山市ロードレース大会 ボランティアスタッフ」に参加した児童の感想から、自分たちのやっていることに対して「ありがとう」や「えらいね」などと感謝の言葉をいただけたことで、温かさを感じる事ができたようである。また、ボランティアを初めて経験する児童がほとんどであったが、「来年度も参加したい」や「他でも機会があればボランティアに参加したい」という思いを持つことができた。 ・【心のバリアフリープロジェクト】でのシッティングバレーボール体験学習では、子どもたちにとって本物のシッティングバレーボールの代表選手と身近にふれあう貴重な体験となった。 <p>実際、「パラリンピック」自体名前は知っていても、その精神や参加するパラリンピアンについてまで考えることはない児童がほとんどであった。しかし、この授業を通じて新しい視点やパラリンピアンへの強い思いを知ることができた。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「流山市ロードレース大会 ボランティアスタッフ」参加では、小学生児童として取り組めるボランティアの仕事について主催者と打ち合わせを行った。また、日曜日であったこともあり、事前に参加の趣旨とボランティア内容や当日の詳細について保護者への説明や理解を得た上で希望者が参加できるようにした。また、こうした大会は本当にいろいろな面から、多くの人達の手によって成り立っていることを実感できた。 ・【心のバリアフリープロジェクト】でのシッティングバレーボール体験学習では、事前指導として「パラリンピックの歴史」や「パラリンピアンとパラリンピックの精神」についての授業を行い、基礎知識を持って授業に取り組めるようにした。 <p>当日は、講話などの時間より、実際に一緒に活動することを中心に行うことで、子ども達が色々な事を感じ取れるように計画した。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「流山市ロードレース大会 ボランティアスタッフ」参加では、学校の行事ではないので、主催者との調整などのやりとりに時間を費やすことになった。また、保護者への説明や連絡も、主

	<p>催者との調整後になってしまう為、連絡が遅くなってしまった。また、日曜日の参加だったので、引率職員へも休日をお願いすることになってしまった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「花いっぱい運動」では、全校児童数が多い中で全校での取り組みの為、低学年～高学年にできる内容を考えたり、準備したりするのに、多くの作業があり、担当の職員には負担になってしまった。 ・【心のバリアフリープロジェクト】でのシッティングバレーボール体験学習では、依頼や準備のやりとりが千葉県障がい者スポーツ協会の担当者の方だった為、確認したいことの回答まで時間がかかってしまった。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度行ってきた実践を基本として、継続実施予定。